

令和3年度

目黒日本大学中学校

入学試験問題

国語

試験時間 50分

注意事項

- 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- この問題冊子は、全16ページあります。
- 解答用紙は、問題冊子の中にはさんであります。試験開始の合図がありましたら、解答用紙を取り出してください。
- 解答はすべて解答用紙の決められた欄らんに記入してください。
- 試験中に質問がある場合は、手を挙げて監督者かんとくしゃに知らせてください。
- 試験終了後、監督者の指示りょうにしたがって解答用紙を提出してください。
- 解答用紙に、受験番号・氏名を記入してください。
- 解答は、特に指示がないかぎり、句読点や記号をふくむものとしします。

受験番号	氏名

一

次の各問いに答えなさい。

問1 ぼうせん部の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 由緒ある建物。
- ② 目の当たりにした光景。
- ③ 貸し借りを相殺する。

問2 ぼうせん部のカタカナを漢字で答えなさい（送り仮名がある場合はひらがなで答えなさい）。

- ① 馬のタヅナを引く。
- ② 冷静をヨソオウ。
- ③ 将来はゲカの先生になりたい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

潜在^{せん}自然^{ぜん}植生^{しせい}というのは、一朝一夕に分かるものではありません。『死んだ材料』にたいして、『生きた材料』とは、人間も含^{ふく}めた動物も植物も微生物群もそうです。

人間がどんなにうまく微生物を培養^{＊ばい}しても、草や木の世話をしても、一時的には人間の目的に應じるように、花を咲^さかせたり、実を実らせたり、あるいはたくさん繁殖^{はんしよく}したりするかもしれません。[X]、必ずやり方によって限度があります。現代では、私たちの周りの動物も植物も、ある目的によって、それに沿うかたちになっています。植物の花づくりも、田んぼや畑の稲作^{いな}や野菜づくりにおいても、目的に沿った、人間の生活に必要な、欲望に沿ったものをつくるために、かなり人工的に、無理をして花を植えたり、作物や野菜や、イネやムギをつくっているのです。

[Y] 目的に應じて木を植えたり、作物をつくることは大事です。食べ物がなければ死んでしまいます。しかし大事なことは、すべての生きものは、その種類の個体のもっている本来の能力を発揮する以上のことはむずかしい、ということなのです。

[Z]、今、多くの人たちが、義務教育の小学校や中学校はもとより、高校、大学、さまざまな専門学校などで勉強しています。ある目的をもってみなさんがそういう学校に行っても、人間が決めた学問——たとえば学校の算数、国語、理科、社会、英語などの教科にたいして、同じように学んだつもりでも、人によってその成果が異なるでしょう。

ですが、今の規格品づくりの時代では、ある目的に應じて規格品をつくることだけが大事になっています。『死んだ材料』で車やコンピュータをつくる場合は、どの部品も一ミリ違^{ちが}っても動きません。今は教育でも、同じような考え方になってしまっています。本来個人のもっている潜在[＊]能力は、人の顔ほどちがうはずですが、私たちの周りの動物や植物を育てる場合でも、森をつくる場合も、規格品づくりだけが基本にされています。

決められた一定の目的に應じて、規定、規則にそったさまざまな方法、手段で、個人も集団もかなり無理をしてがんばっているのが現代です。しかし、どれほど努力しても、その人、その集団のもっている本来の力、潜在能力を発揮する以上のことはなかなかむずかしいのです。

森づくりの際しても、木材生産など人間の経済的な目的に應じて、間伐^{＊ぼつ}、枝打ち、下草刈りなど、人間が管理という形で影響^{えいきやう}を与^{あた}えていくように努力しています。そういう木々や森は、管理をやめたとたんに、まわりのマント群落と呼ばれるクズ、カナムグラなどの林縁植物などが侵入^{しん}し、繁茂^{＊はんも}して、森がしだいに荒^あれてきます。

大事なことは、とくに「いのちを守る森づくり」をめざす場合には、見かけがいいとか、すぐに育つということではありません。自然は、人の顔ほどみんながいます。したがって、その場所の自然環境^{かん}の総和が、本来どのような緑を、森をつくる潜在能力をもっているかが大切です。

現在日本の国土の大部分は、本来その土地に応じた森ではありません。私たちは、マツが優占^{せん}していたらマツ林、ヨシの湿原はヨシ群落とかいうふうに言っています。私たちは今、見えるもの、目立つものだけによって、たとえばマツ林だとかスギ植林だとかスキ草原などと名付けています。これは見かけ上、相観^{さく}的にはわかりやすい。しかし、同じマツ林でも、あるいはヨシの湿原でも——ヨシ群落は北半球の川辺や池の周りなどのどこにもありますが——、たんに今目立っているマツやヨシだけでなしに、それを支えている、さまざまな生き物の「トータルシステム^③」として把握^{はあく}することが大事です。森の場合は、亜高木や低木や下草、土の中の微生物群も含めてのトータルシステムを考えることです。自然は、ゆるやかな有機体[※]をつくっています。自然の森^Iも、湿原もそうです。

たとえ人間のための土地利用でも、長つづきするためには、このような土地本来の緑を支える能力（Ⅱ潜在自然植生）に応じた利用をし、いのちの森づくりをやらなければいけません。しかし往々にして、ある目的に応じてだけ、それに対応するようにだけ、無理に管理してやっていることがほとんどです。ですから、管理をやめたとたんになる場合が多いのです。土地に合わない木を植えた場合は、充分^{じゅうぶん}に管理すれば対応できるかもしれませんが、やめたとたん^{II}に森は荒廃^{こうはい}し、草原はヤブ状になる危険性があります。

また、地球上のほとんどが、五百万年この方、人類がこの地球に出現してから、とくに最近の数万年、一万年、数千年この方、人間によって作られたものがほとんどです。新しい科学・技術^{III}によって、より便利で、効率的な生活の場をつくることは、われわれ人間が生きていくためには、当然、今後必要です。善意による森^{III}の利用、農作物づくり、集落・都市づくりのために、土地本来の森の破壊^{かい}もある程度はやむをえませんが、多くの場所で、その土地の潜在能力を超えた過剰^{じょうじょう}な緑の利用によって、土地本来の緑——森は、ほとんど失われています。

今私たちが見ている周囲の植物も動物も、さまざまな生きものたちは、人間活動によって生じた、あるいは作られたものがほとんどです。私たちが生きていくためには、もちろん多様な自然を画[※]一化して、目的に応じて、作物も野菜も、材木などの利用のため、本来そこに自生していなかった、いわゆる客員樹種^④の木も植え、育てなければいけないことは確かです。どれも必要です。しかし、それだけではいけない。

今、一番大事なことは、「いのちを守る」ことです。いのちを守る本物の森^{IV}は、管理費がいらぬし、何世代も自立発展し、必ず襲^{おそ}う自然の災害、台風、地震^{しん}、火事、津波、大火事、洪水にも耐^たえて生き延びる、それが土地本来の緑、森というものです。そのような森をつくる場合は、今^⑤ある緑や森をそのまま残すだけでは不十分、いや不可能[※]と云っていいのです。

（宮脇昭『見えないものを見る力』より）

※培養……細胞などを人工的な環境下で育てること。

※潜在能力……秘めたその人自身の能力の可能性。

※間伐・枝打ち・下草刈り……植物の成長を制御すること。

※繁茂……一面に生い茂ること。

※相観……植物群落を外観的にとらえた様子。

※有機体……多くの部分が関連を持ち統一された全体。

※画一化……全体を同じ様子、状態にそろえること。

問1 ぼうせん部①「ある目的」とはどのような目的か。本文中の言葉を使って「く目的」となるように十五字以内で答えなさい。

問2 空らん X く Z に入る接続語の組み合わせとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | |
|-----|-------|---|------|---|------|
| ア X | しかし | Y | もちろん | Z | たとえば |
| イ X | つまり | Y | あるいは | Z | ところで |
| ウ X | ですが | Y | たしかに | Z | さらに |
| エ X | したがって | Y | さらに | Z | さて |

問3 ぼうせん部②「規格品をつくること」とはどのようなことか。解答らんにあうように、十八字以内で答えなさい。
(十八字以内) すること。

問4 ぼうせん部③「トータルシステム」を言い換えた表現を本文中から七字でぬき出しなさい。

問5 二重ぼうせん部Ⅰ～Ⅳ「森」とあるが、二種類の「森」に分けられる。「管理を必要としない森」はAで、「管理を必要とする森」はBで答えなさい。

問6 ぼうせん部④「客員樹種の木」とあるが、同じような意味で使われている言葉を本文中から八字でぬき出しなさい。

問7 ぼうせん部⑤「今ある緑や森をそのまま残すだけでは不十分、いや不可能」とあるが、そのように考えるのはなぜか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 新しい科学・技術により、今まで以上に管理費がかかるため状況は改善されず、加えて人間活動によって変化した森では、人間のいのちを守る森とは言えないから。

イ 管理費のかかる森を残すことになるため今までと状況は変わらず、さらに土地本来の緑が失われた状況では、自然災害から人間のいのちを守る自立した森にはならないから。

ウ ヤブ状になった草原を、管理をすることで過剰な森の使用を制限できるが、人間活動によって作られたものでは未来を保証する森にはならないから。

エ 土地の潜在能力を超えた過剰な緑の利用によって、多くの人間の生活の場が失われたが、元の姿に戻すことはできないため、今後人間による管理が必要だから。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

翌日の放課後、いつもどおり掃除をする振りをしながらミタセンの机のまわりを搜索すると、例の本が出てきた。パラパラと繰ってみるも、なにがなんだかサッパリわからない。

ポケットからスマホを取り出して、ネットでフランス語の無料辞書アプリを探す。そして、その本のタイトルを入力してみる。

実行ボタンを押すと、ほどなく簡易翻訳された。そこにあらわれたのは、

「十八世紀南フランス家庭料理の歴史」という文言。やられた。

我慢できずミタセンが来たときに抗議する。

「先生、だましたでしょう。知ってるんですよ。この本の中身」

厳しく追及するも、

「ああ、バレちゃったんだね」

動揺するそぶりすら見せない。

「どうしてわたしをチューバに選んだんですか？」と問いかけると、目をしばたかせ、

「鏑木さんの性格がチューバ向きだと思ったから」と取ってつけたように言う。

「ウソばかり。ホントひどい」

呆然としてつぶやくと、

「えー、じゃあ吹部やめちゃうの、もったいないな。もういまさらほかの部活なんか移れないだろうね。あーあ、かわいそうに。部活のない暗黒の高校生活を送るんだ。将来、子どもに『おかあさん、高校で部活なにやってたの?』と聞かれたら『帰宅部』って答えるしかないんだね。それでもいいの、ホントにいいの?」

①「一番気にしているところを突いてくる。」

あー、なんてイヤなヤツなんだろう。心のなかで愚痴ってみた。

それでもなんとか我慢してミタセンについていつていた。

ある日の合奏でマーチをやっているときのこと。ミタセンはいきなりこう命じた。

「ラッパの八幡やくんはたと清水しみずさん、ファーストとセカンドを交代かしてみてちょうだい」

八幡や太一たいちは憤然ふんぜんとして納得ないかない様子ようすで、清水しみず真帆まほは驚おどろきを隠かくせない。

トランペットは吹奏楽の世界において花形だ。金管楽器ではもつとも高い音がでるため主旋律せんを演奏することが多い。とにかく目立つのである。

そのパート※のなかでも高い音を吹く順にファースト、セカンド、サードとさらに担当たが分わかれています。

ファーストは一般的ぱんにその吹部のエーストランペッターが吹く。メロディーを演奏するといふ榮譽よを担たうだけに、失敗するとその責任もすべて負わなくてはならない。

真帆はほとんど聞きとれないような小声で抵抗ていした。

「……わたし、ムリです。このままじゃダメですか？」

「ダメダメ、とりあえずやってみて」

ふたりは入れ替かわって合奏は再開した。

ところがまったく練習をしていないフレーズを吹くこともあって、真帆はなかなかうまくいかない。

そのたびに演奏をとめられ、

「清水さん、そこリズムおかしいよ」

「ラッパのファースト、やり直し」と注意を浴びせられる。

なんとかついていこうとしているのだが、萎い縮ししてしまっているのか息が安定して入ってこない。

次の日の真帆は元気がなかった。

それでも個別練習のときに教室をのぞいてみると、必死になって新しいパートを練習している。

この日の合奏においても真帆は集中砲火ぼうを浴びた。

「楽譜ふがからだに入っていないよ。その音、短く切って。はい、やり直し」

「違ちがう違ちがう、もつと立てて」

「あー、なんだその音、大きい音ときたない音とは違ちがうんだよ。自分の音をもつと聴きいてみて」

しばしば合奏はとめられ、真帆だけがみなの前でひとり吹かされる。

真帆の顔面は蒼白^{そうぱく}だった。

翌日は心配になったので、昼休みになるとほかの二人と真帆の教室に行ってみた。

予想どおり机の上につっぷしている。

「まーほ」

「元気だしてよ」

「ミタセンの言うことなんか気にしたらアカンでえ」

大磯渚や副島奏^{はし}と励まし続けるも、

「ありがとう、がんばるよ」と力なくつぶやくだけ。

ふだんからそれほど口数の多い娘^こではなかったが、やっぱりふさぎ込んで^こいる。

放課後になり、合奏の時間が近づいてくるとキリキリと胸が痛んだ。今日は無事に終わりますようにと祈^{いの}る。

でもきのうと変わらず、名前を呼ばれるのは真帆ばかり。

合奏はまったく前に進まない。

ミタセンの言うことはもつともなことばかりだった。でも言葉尻^{じり}がきついので、真帆は緊張^{きん}のあまり対応できなくなっている。

もう少し言い方^{かた}つてものがあるんじゃないの。

抗議をしようと思つた矢先のことだった。

「やっぱりわたし、できません」

そう言うや、真帆は音楽室を飛び出していった。

「真帆」

あわてて追いかけてようとすると、

「ほっといたらいいから」とミタセンから制される。

【中略】

思つたよりも元気そうでホッとした。

「わたしき、誰にも言つてなかつたけど、もともとすごいあがり症しよなの。小さいころから本番はことごとくダメで。ますます人前にでるのがおつくうになつてきた」

真帆は問わず語りに話しはじめた。

「小学校のとき、運動会の実行委員になつて朝礼台で話をしなくちゃならないことがあつただけど、壇上だんじやうにのぼると息もできなくてね。ひとこともしゃべれずに降りたんだ。練習でできることでも本番は絶対に失敗する。だからなるべく目立つところへは顔かほださないようにしようつて決めたんだ」

いったん紅茶に口をつける。

「高校もホントは本命の私学へ行きたかつたんだけど、入試のときに固まっちゃつてさ。頭が真っ白になつてなにも書けなかつた。だから公立は、担任が『お前だつたらここは安全圏けん』つて言つてくれた学校を受けたつてわけ」

「真帆は頭がいいからどうしてウチの学校に来たんだろうと不思議に思つていたのよ。そんなことがあつたんだ」
仲がいいつもりだつたけど、知らないことばかりだつたんだなと実感する。

「大学入試だつて失敗するのはわかつてる。だから勉強しても意味ないんだけどね。ムリせず推薦※せんで行けるところを探そうと思つてるんだ」
真帆は力なくほほえんだ。

「わたし戦いのない世界へ行きたいの。静かに生きていけたらそれでいい。トランペット選んだのも失敗だつたと思う。だつてペットつて『わたしがつてやる』つていう気持ちがあるひとじゃないと務まらないじゃん。家にトランペットがあつたからはじめただけなんだけど、性格的に向いてないとつくづく感じるんだ。沙耶さやちゃんがチューバへ転向するつて聞いたとき、わたしも変わりたいと思つた。だつて低音部だとあんまり失敗が目立たないじゃない。まあ聴くひとが聴けばわかるんだけどさ」

「吹部、どうするの？」

「学校の文化祭とかで演奏するだけの部活だと思つて入つたから、コンクールへでるなんて気が重かつた。で、やつてみて、やっぱりわたしにはムリだと思つ」

「そんな、さびしいこと言わないでよ。じゃあ、ファーストじゃなければ吹部もとに戻つてくれる？」

「ミタセンにはなにを言つてもムリじゃないかな。もう疲れちゃつた。今度生まれてくるんだつたら植物⑤がいいな。本番とかなさそうだし。ひとに期待されるのつてしんどい。もう静かに生きていきたい」

真帆はわたしにとって一番大切な友だちだ。自分のためだったら文句なんか言えないけど、真帆のためだったらぶつかっていい。わたしはミタセンのところへ直談判しに行った。

「先生、真帆をセカンドに戻してください」

「ダメダメ、もう決めたんだから。まだまだ足りないとかばつかりだけど、将来性を考えると清水さんが一番向いてると思うよ」

「でも本人がムリだつて言っているんだから。なにより彼女の気持ち^{かの}が大事でしょ」

「はあ、なに言ってるの？ 吹部に入ってきて、ファーストやりたくないとかわけわかんない」

「いろんな考え方を持った子どもがいるんだから、その生徒の感情を思いや^⑥って育てるのが教師の仕事でしょ」

「教師の仕事^⑧って言うけど、ボクはね、教育とかそういうの全然興味ないの」

「だって、先生は先生じゃん」

「音楽やりたいからたまたま先生やってるだけ、音楽だけで生きてけるんだつたら教師なんかいつでもやめちゃう。教職はイヤイヤやってんのよ」

「でも仕事は仕事でしょ。だつたら生徒の気持ちを考えて指導しないと」

「先生、先生ってなんでも教師に頼^{たよ}るんじゃないよ、まったく。いまの子はいつでも態度^⑦が消費者だからまいっちゃうんだよね」

欧米^{おうち}のひとが困ったときにしよう手のひらを上に向け、大げさに肩^{かた}をすくめて見せるもんだから、さすがに頭にきた。

「だって、あなたは教師でしょ。悩^{なや}んで迷っている生徒がいたら、その心をひらくように導くのが教師じゃないですか」

「教師^⑧？ はあ、ボクだつて人間だよ。二十四時間教師の仮面をかぶ^{かぶ}つてられないよ。ボクは教室で教えてるときだけ教師なの。部活のときのボク

はボクなのよ。イヤならやめたらいいんだよ」

「じゃあ、なんで教師やってんのよ」

「だからさつきも言^いつたでしょ。生きるためよ。働かなきゃごはん食べられないでしょう。教師だつてうんこもする、欲望もある、好きな生徒もい

れば嫌^{きら}いな生徒もいるわけ。人間なのよ。他人に期待しすぎると良くないってこと、身をもって教えてるの。うらむんだつたら採用した教育委員会

をうらみなさい。ボクに教えられるようになったわが身の不幸^{のう}を呪^{のろ}えばいい」

わたしはそれほど沸点^{ふち}の低い人間じゃないけど、このときばかりは頭に血が上った。

「前から思^{おも}ってたんだけど、先生はどうして生徒をほめないんですか？」

「そりゃ、ちゃんとできてりゃほめるよ。ほめるところないんだもん、しかたないじゃん」

なにを言っても意に介さず、のれんに腕押しだ。

ミタセンは人の意見を聞くということを知らない。

家に帰って言っていることをよく検討してみると、おかしいことばかり。でもあまりにも早口なので、その場ではいつもごまかされてしまうのだ。

普段だったらとつくにあきらめていただろう。でも今日ばかりは真帆のために、あとには引けない。しつこく食い下がってみた。

「先生のせいで真帆は登校拒否になっちゃったんだからね。どうしてくれるの？」
その瞬間だった。

ミタセンの顔が激しくゆがんだ。

「登校拒否……」

それだけつぶやくと、フラフラと立ち上がる。

「登校拒否、そーなんだ。学校来てないんだ」とぶつぶつぶやく。

そして音楽準備室のなかをぐるぐるまわりはじめた。

⑨ 挙げ句の果てに、わたしのことを置いて出ていってしまった。

いったいなにが起こったのだかさっぱりわからない。

その日の合奏はミタセン不在のため取りやめになる。

翌日から真帆は吹部に復帰した。

「ミタセンから電話があったんだ。セカンドに戻してくれるだけじゃなくって、これからの合奏では絶対に厳しく言わないからとにかく復帰してくれ……。なんか泣いてるみたいだったから、もう戻らないとも言えなくてね」

急転直下、一件落着となったわけだ。

それにしても、あれほどガンコでわがままで、ひとの言うことなんか全然聞く耳を持たないミタセンがどうして急に態度を変えたのだろうか。キツネにつままれたような思いだけが残った。

※チューバ……金管楽器の一つ。

※マーチ……行進曲。

※パート……役割。

※推薦……学力試験のいらない入学制度。

問1 ぼうせん部①「一番気にしているところ」とは何か。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 部活で活躍やくすることは最も自分らしくいられる方法であり、辞めるのは自己否定につながるということ。

イ 部活は高校生活の大切な思い出になるため、ここで辞めると後悔かひすることになるということ。

ウ 教員のいいなりになっている自分に嫌気がさしても、結局は我慢かひするしかないということ。

エ 将来、幸せな結婚こん生活を送っている年齢れいになったときに、部活での失敗がつきまとうということ。

問2 ぼうせん部②「清水真帆は驚きを隠せない」とあるが、どのような驚きか。説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア とうとう私がファーストになれる、という驚き。

イ なんて私がファーストなんだろう、という驚き。

ウ 私を何としても追い詰めたいのだろう、という驚き。

エ なぜ先生が勝手にパートを変えるのだろう、という驚き。

問3 ぼうせん部③「キリキリと胸が痛んだ」とあるが、なぜか。「萎縮」という言葉を用いて、三十五字以内で心情の説明をしなさい。

問4 ぼうせん部④「失敗するのはわかってる」とあるが、ここでの「失敗」の意味としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分が学んできたことを証明するための試験から逃げる^にこと。
- イ 受験という競争の中で、自分より学力がない人に負けること。
- ウ 自分の学びに対して「意味がない」と自分で決めつけること。
- エ 受験当日に本来の力を発揮することが出来ず、不合格になること。

問5 ぼうせん部⑤「植物がいいな」とあるが、植物はどのような世界を生活しているものの例えか。ふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人に注目されることがなく、技術や学びの成果を出す機会がない世界。
- イ 上手や下手という基準が存在せず、ありのままの自分で生きていける世界。
- ウ 目指すべき目標や結果のために努力する必要がなく、楽しく過ごせる世界。
- エ 人に期待や失望をさせることなく、周りに振り回されない世界。

問6 ぼうせん部⑥「教師」、ぼうせん部⑧「教師」とあるが、二人のいう「教師」の説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア「わたし」にとつての「教師」は、どんなことがあっても社会的に正しいことを貫く存在であり、ミタセンの言う「教師」は勤務時間中かどうかによって生徒への態度を変える存在。

イ「わたし」にとつての「教師」は、生徒に的確に寄り添うことが出来る存在であり、ミタセンの言う「教師」はそのようなイメージとは異なる人としての欲もあわせ持つ存在。

ウ「わたし」にとつての「教師」は、親友のように親身になって相談にのる存在であり、ミタセンの言う「教師」は仕事をこなすために上辺だけをとりつくろっている存在。

エ「わたし」にとつての「教師」は、生徒の悩みを自分のことのように扱う存在であり、ミタセンの言う「教師」は何よりも部活に真剣に取り組む生徒のことを重視する存在。

問7 ぼうせん部⑦「態度が消費者」とあるが、どのような態度のことか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 私立の学校に高い授業料を払っているのだから、払った分だけの質の高い教育を求める態度。

イ 教員が生徒の都合に合わせて、何でもやってくれることを当然だと思っっているような態度。

ウ 生徒が主体的に行動しているために、教員を自分たちと対等な存在だと思っっている態度。

エ 部活の顧問の指導を自分たちの演奏の上達のために、最大限利用していかうとする態度。

問8 ぼうせん部⑨「いったいなにが起こったのだか」とあるが、ここでのミタセンの心情について、ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 真帆にはファーストをこなすだけの才能があると見込んだが、それが自分の勘違いであったことにかく然としている。

イ 音楽に妥協したくない自分の気持ちを優先するあまり、「わたし」の気持ちをないがしろにしたことを心の底から後悔している。

ウ 熱心に生徒を育てているつもりになっていたが、生徒を精神的に追い込んでしまったことに対する責任の重みを感じている。

エ 技術を高めるためなら生徒に冷たい教員と思われても良かったが、そのような自分の態度に怒りを覚える生徒を理解している。

問9

本文について説明したものととしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「わたし」の思考が停止してしまうほど、ミタセンの言葉を威厳いのあるものとして表現している。
- イ 真帆が悩みを「わたし」に打ち明けるなかで、自分が部活に戻る方法を「わたし」に提案している。
- ウ 目立ちたがり屋の「わたし」の行動力を描くかことで、引っ込み思案な真帆の大人しさが強調されている。
- エ 人の意見を聞かないミタセンの自分勝手な態度に「わたし」はねばり強く話し合うことを続けている。

四

次の各問いに答えなさい。

問1 空らんにふさわしい言葉を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

・彼は 無理をしがちだ。

- ア おざなりに イ はかなく ウ まんべんなく エ ややもすると

問2 空らんにふさわしい言葉を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

・ な表現をされても、よくわからない。

- ア 抽象的 イ 民主的 ウ 絶対的 エ 根本的

問3 ことわざの意味としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

・塞翁が馬

- ア 他の者の力を借りて、自分を強く見せようとする事。
 イ 自分の人生において幸不幸を予測するのは難しい事。
 ウ 周りを敵にふさがれて、身動きが取れない状態のこと。
 エ 見た目を気にする人は、何かに欠けているということ。

問4 四字熟語を完成させるため、空らんにふさわしい漢字を答えなさい。

・異 同音（多くの人の意見や表現が一致すること）

以下余白

—